

## スイッチング・コストの計測 - リレーションシップ・バンキングのダークサイド -

財務総合政策研究所 島袋伊津子

本稿の目的は、企業が取引金融機関を変更するときに発生するスイッチング・コストを定量的に計測することである。銀行貸出におけるスイッチング・コストは関係特種的な取引において蓄積された情報という資産に基づく借入れを行っていた企業が、取引先銀行を変更する際に、これまでの取引先での情報を評価されず、サンクするコストを指す。このような試みの背景は、リレーションシップ・バンキングに関する議論で、関係特種的な情報に基づく取引は企業をロック・インする効果があるという指摘が理論的になされていることによる。そのコストはスイッチング・コストと捉えることができる。

本稿はリレーションシップ・バンキングの議論の整理と注初期 g 法貸出に関する簡単なレビューを行い、実証分析では、customer-specific な情報を必要としないスイッチング・コストの計測方法を提示した Moshe et al(2003)モデルを基に信用金庫のパネル・データを用いて計測した。

このような計測を行うことの政策的意義としては、複数の資金調達手段を持たず、リレーションシップ・バンキングに頼る企業が、例えば取引先金融機関が破綻した場合、多額のスイッチング・コストのためにスムーズに借り換えができず、資金難に陥る可能性という問題が考えられる。